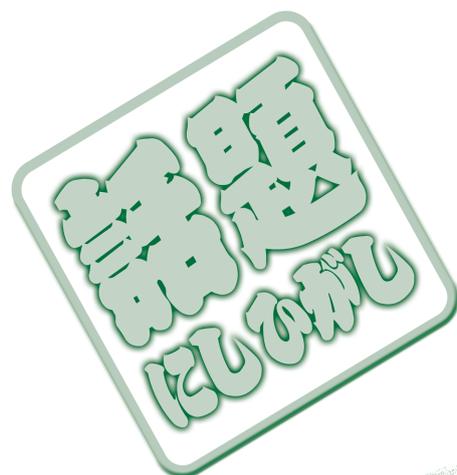


国際音楽祭で世界一を獲得

スペイン・ヴァレンシアで開催された国際音楽祭に県高文連吹奏楽部選抜吹奏楽団の一員として出場した、当町の敦賀美穂さん（五所川原工業高校3年）と下山千尋さん（同校3年）が8月9日（火）、相川町長を訪ね、同音楽祭の「第3部門」（40～50人で構成）で優勝したことを報告しました。

音楽祭では課題曲を含めた計3曲を演奏し、最高得点を獲得。引率した同校の高橋英樹教諭は「本番で練習以上の演奏をしてくれた」と述べ、観客からはスタンディングオベーションや「ブラボー」と声があがったといいます。敦賀さんは「優勝できたのはとても良い思い出。音楽は世界共通なんだと肌で感じた」と笑顔で話していました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。



△（右から2人目より）敦賀さん、下山さん、高橋教諭、敦賀さんの母

農作業に必要な知識と技術を学ぶ

農業における労働力不足を解消するため、担い手の確保・育成を目的とした「鶴田町就農希望者育成支援事業」が8月24日（水）から始まり、リンゴ農作業に必要な知識と技術を学ぼうと、町内の40代から60代の男女13人が参加しました。

豊明館で行われた開講式では、若手農業後継者グループ「みどりの会」の下山康祐会長が担当スタッフを代表してあいさつ。続いて、県りんご協会の工藤英紀さんがリンゴ農作業について講義を行った後、参加者が町内の園地で葉とり作業を体験しました。今後は、参加者に玉まわしや収穫作業などを体験してもらい、就農またはパート作業従事への動機付けを目指していきます。



△講師の工藤さん（左）から葉とりのポイントを教わる参加者

児童がミニトマトの収穫に喜び

8月25日（木）、水元中央小学校の2年生7人が学校近くにある中野光彦さんのミニトマト畑で収穫を体験しました。

収穫体験は、妙堂崎地区に住む中野さんが子どもたちにトマトの育て方や、自分たちで農作物を収穫して食べる喜びを知ってもらうために行っており、今回で2回目の開催となりました。

この日収穫したミニトマトは、薄皮で果物のような甘さが特徴の「キラーズ」や、切り口がハート型の形で肉厚の「トマトベリー」など4種類。子どもたちは中野さんから収穫の仕方を教わりながら、赤や黄色のミニトマトをもぎ取り、とれたてのみずみずしい味わいを楽しんでいました。



△色とりどりのミニトマトの収穫を楽しむ児童



△相川町長（右）と意見を交わす商工会青年部の皆さん

商工会青年部と町が意見交換

町が地域の各団体とテーマを決めて意見交換をする「鶴の里まちづくりミーティング」が8月29日（月）、国際交流会館で開催されました。

2回目となるこの日は、鶴田町商工会青年部と町の祭りやイベントの運営方法などについて意見を交わしました。参加した部会員からは「子どもたちの学校行事と重なり、お客さんが少ないイベントもあった」や「つるたまつりの中の行事と行事の間の時間が長いので、短くした方が人が途切れず良いのではないか」といった意見が出され、相川町長は「青年部の皆さんが思っていることを意見に出して、お客さんが「楽しかった」と思うイベントにしていきたいと思います」と話していました。

岩木山神社に大しめ縄奉納

五穀豊穡や家内安全を岩木山に祈願する「お山参詣」が8月30日（火）～9月1日（木）までの3日間、岩木山神社で行われました。

31日には、登山囃子と、「サイギ、サイギ」の掛け声が響く中、当町の山道町内会（澁谷信一会長）の皆さんが神社の拝殿に大しめ縄を奉納しました。しめ縄は3年に一度古くなったものと交換することが恒例で、昭和50年から続く町内会の伝統行事。この日は、胡桃館小学校の児童らと神社を目指して歩き、全長23m、太さ60cm、重さ約80kgの大しめ縄を神社の拝殿に取り付けました。澁谷会長は「地域の伝統行事として、次の世代につなげていきたい」と話していました。



△拝殿に大しめ縄を取り付ける山道町内会の皆さん